

令和7年度 学校運営協議会（第3回）議事録

- 1 日 時 令和8年2月2日（月） 14:15～15:00
- 2 場 所 本校 会議室
- 3 参加者 協議会委員：地域住民、保護者等5名
本校教職員：校長、教頭、事務長、首席、教務部主任、生徒指導主事
保健主事

1、校長挨拶

いよいよ最後の年となり、本当に寂しいと感じる。3年生のテストも4日目となった。先生方は、在校生全員を卒業させるという思いで一生懸命取り組んでいる。

また、先生方は授業等で様々な工夫をされており、それらが様々な形で結果として出ているように思う。本日も色々ご意見賜りたいと思いますので、よろしくお願ひします。

2、議事

◎ 令和7年度 学校経営計画及び学校評価（案）について

年度末をもって閉校となることから、令和7年度学校経営計画及び学校評価（案）についてのみの説明となる。

○ 中期目標について

1. 進路を切り拓く力の育成 （1）「わかる授業、魅力ある授業」をめざした授業改善にある、『生徒向け学校教育自己診断の授業理解度 85%以上にする。』の項目はほぼ達成している。

一方、（2）基礎学力の定着に向けた取組みの推進にある、『教え方を工夫』に対する肯定度は93.2%で、目標の95%には達しなかった。しかし、平成22年からデータをさかのぼると、93.2%の肯定度は過去最高の数値であった。

2. 生徒支援体制の整備と豊かな人間性の涵養 （1）一人ひとりへの支援体制の強化にある、『保護者から学校への相談がしやすいかどうか』の肯定度は74.1%で少し下がった。その反面、いじめなどの重要案件への対応に関する肯定度は上がっている。日常における保護者の困りごとについての取組みに課題を残した形となった。

○ 学校教育自己診断の結果と分析と、学校運営協議会からの意見について。

【令和6年度との比較】

- ・ 生徒結果に関しては22項目中17項目で昨年より肯定度の上昇がみられ、そのうち16項目が過去最高であった。
- ・ 保護者結果に関しては22項目のうち21項目で肯定度が上昇した。うち8項目が

過去最高であった。

・ 教職員については 22 項目のうち 13 項目の肯定度が上昇した。そのうち 11 項目が過去最高であった。

☞ 最終年度となったが、先生方には一生懸命に取り組んでいただき、生徒にもしっかり関わっていただけたと思う。それが成果につながったと捉えている。

【学習指導等】

学習指導については、全般に渡って比較的高い評価をいただいた。

・ 目標に達しなかった項目について

・ 授業関連における教職員の「主体的・対話的で深い学び」につながる指導の実施度の項目については、去年と比較して肯定度が約 7%低下した。また、教員の ICT 機器の積極的活用も 88.2%となり、昨年度の 100%と比較すると 11.8%減少となった。

☞ 昨年は学習指導要領に沿って「主体的・対話的で深い学び」の実現、及び ICT 機器の積極的活用を通して授業改善に取り組んだ。しかし、今年度は更なる授業の充実に向けて、「指導と評価の一体化」に重点をおいて授業改善に取り組んだ。そのため、昨年度に重点的に取り組んだ内容について、引き続き高い意識をもって取り組んでいただけなかったことが原因ではないかと考えている。

・ 授業アンケートについて、「知識・技能」が身についたかどうかという項目が、昨年の 3.38 から今年 3.56 となり大きく伸びた。また、授業の「興味・関心」についても、昨年の 3.36 から今年 3.52 と大きく伸びている。

☞ 教員アンケートにおける「主体的・対話的で深い学び」の実現や ICT 機器の活用に関する肯定度は減少したものの、総合的にみると授業改善は着実に進んでおり、非常に良い成果が出ているものと考えている。

【生徒指導について】

・ 生徒指導全般について

・ 『生活指導をきっちり行っている（生徒）』の肯定度は 89.2%と 5.8%減少した。直近 3 年では減少傾向にあるが、依然として 9 割弱の生徒が肯定的な評価をしてくれているという状態である。

・ 保護者では肯定度が 84.1%で 2.5%上昇しており、評価は上がっている。

・ 『先生の指導は理解できる（生徒）』の肯定度は 81.1%で 0.3%下がっているが、去年の数値は過去最高であったことを考えるとほぼ横ばいに近い。

・ 『教職員のカウンセリングマインドを取り入れた生徒指導』の肯定度は 94.1%で非常に高い値となっている。

☞ 生徒に対して、「時には厳しく時には寄り添いながら支えていく指導」が着実に成果を上げているものと考えている。

・ 相談・支援体制について

- ・ 『保護者の相談に適切に応じてくれる』肯定度は74.1%と低下した。
- ☞ 日常の相談体制は担任中心に行ってはいたものの、保護者との意思疎通が十分でない状況が課題として浮かび上がった。

【情報発信について】

- ・ 保護者のホームページやまちこみメールの利用については、肯定度が65.1%と昨年より上がった。しかし目標の70%には至らなかった。
- ・ 『教育方針、情報等を分かりやすく伝えている』肯定度は67.8%で大きく上がっている。また、『学校での様子を知る機会がある』肯定度も84.4%で1.2%上昇している。
- ☞ 保護者の方々は、必要最低限の情報は担任の電話連絡や生徒を通じての連絡などで取得していただけていると考える。このような観点から、ホームページなどの作り方については工夫・改善の余地は十分にあると考えている。

【全体を見渡して】

- ・ 『勉強することは大切（生徒）』肯定度は93.2%となり、9割以上の生徒が勉強することは大事だと思っていることが分かった。
- ☞ 学校としては、生徒が勉強に対して肯定的な考えを持っており、非常に喜ばしい状況であると捉えている。
- ・ 『授業でわからないことは、質問できる』肯定度は78.4%と過去最高であった。
- ☞ 先生方は、授業の中で質問しやすい雰囲気を作りながら授業を進めていることが伺える。
- ・ 学校斡旋・就職一時内定率は82.1%で目標の85%には届かなかったが、最終的に全員の就職先が決まった。
- ・ 4年制大学・短大・専門学校に関しても、全員希望校への進学が決まった。
- ・ 『学校に行くのは楽しい（生徒）』の肯定度が83.8%と、昨年度の74%から大幅に上がった。
- ・ 平均遅刻回数（1人当たり）は年間2.9回となり、目標の年間1.7回には及ばなかった。
- ☞ 不登校傾向の生徒については、「登校できそうなときは遅れてでも学校に来る」ということを目標にしたため、このような数字になった。不登校傾向の生徒を除くと、目標をほぼ達成している状況になっている。
- ・ 時間外労働の月平均時間は14.7時間と、全日制の普通科高校では一番少ない値となっている。
- ☞ 今年度は閉校業務などをはじめとする様々な業務もあったが、先生方はそれぞれ工夫をしながら無理なく順調に進めていただいている。
- ・ 「教育活動について話し合っている」肯定度は100%となった。
- ☞ 先生方にはできるだけ職員室に常駐していただき、日常の教育活動や生徒情報

の共有、授業改善等に関する情報共有など、日頃から様々な意思疎通を行っていただいている。

（協議会員より）

- ・ 「ICT の活用」や「主体的・対話的で深い学び」については肯定度が少し減少したということだが、中学校でも進めていかないといけない案件であるが、美原高校はしっかりと目標設定したうえできちんと取り組んでいる。
- ・ 学校での ICT 活用も必要であると思うが、「自分で考える機会を作る」など全体のバランスを考えて取組みを進めていく必要がある。
- ・ 「知識技能」や「関心興味」など、授業に対する生徒意識は伸ばしていかなければならないが、美原高校は見かけではなく実力もきちんと伸ばしていると感じる。また、指標にとらわれず、子どもたちの学力が上がることをきちんと考えている点で、成果が上がっているように感じた。

⇒ 「美原高校を卒業するまでにつけさせたい力」を作った。それに対して各教科の先生方に具体的に何をすべきかを考え、その上で授業をしていただいた。

また、昨年度と今年度大阪府教育センターのパッケージ支援を通して指導主事の方に来ていただき、指導助言をいただきながら授業改善を進めた。その中で、生徒が「学力面・意識面でどのような力が身についたか」についてのアンケートを昨年4月、12月、そして今年の12月に行った。昨年4月から見ればどれも大きく伸びた。昨年12月から見ると「横ばい」や「下がっている」項目はあるものの、大半の項目で伸びていた。中でも、「課題を見つけたり、見つけた課題を考えることが楽しい」などの項目が大きく伸びるなど、大きな成果があった。

○ 令和7年度学校教育自己診断の結果と考察と自由記述に対する回答について

アンケートは、令和7年11月27日に実施した。生徒100%、保護者89.3%、教職員100%の回収であった。

【年次別という過去3年間のデータと比較について】

- ・ 生徒について
 - ・ 『授業は分かりやすい』の項目では、この3年間で平均が8.8ポイント上昇した。
☞ 授業改善PTの設置や授業改善研修の実施が好結果の要因であると考えている。
 - ・ 『授業でわからないことについて先生に質問できる』や『少人数によるきめ細かな指導が行われている』の肯定度も上昇している。
☞ クラスにおける生徒数の少なさや国語・数学の少人数の授業が多くあり、質問しやすい環境になっていることが伺える。
 - ・ 『全校朝礼や学年集会や学年集会は学校生活において自分のためになっている』の肯定度も10ポイントの上昇が見られた。
☞ 単学年になったことで、焦点を合わせた話ができており、生徒が自分のことと

捉えて話を聞いていると考えている。

・ 保護者のアンケート結果について

・ 『学校に行くのを楽しんでいる』『子どもは授業が分かりやすいと言っている』『学校で学ぶことは大切だと思っている』という項目で、肯定度がこの3年間で10ポイント以上上昇した。

☞ 生徒が学校生活や学習の充実を家庭の方で共有したり、ご家庭で会話をしている結果と考えている。

・ 『教育方針や教育情報等を分かりやすく伝えている』の肯定度は10ポイント以上上昇した。

☞ メールなどを通して学校の教育状況がより伝わるようになってきているということも上昇の理由として考えられる。

・ 『学校行事は子どもたちに達成感や自主性を持たせるよう工夫されている』の肯定度でも、10ポイント以上上昇した。

☞ 生徒数が大幅に減った中で、「思い出になる行事」について教員・生徒で検討し実行してきた結果と考えている。

【教職員のアンケート結果について】

・ 『学校運営に教職員の意見が反映されている』の肯定度は10ポイント以上上昇した。

☞ 各教職員が教育活動について考え、学校運営に意見を反映させられる機会を増やすことができていると考えている。

【3年生の年度別変化・生徒のアンケート結果について】

・ 過去の3年生との比較になる。多くの項目でわずかであるが低下している。

・ 『学校の施設設備についてはほぼ満足している』の肯定度は22.2ポイント、『学年集会は学校生活において自分のためになっている』の肯定度は15.7ポイント、それぞれ上昇している。

☞ 学校の施設設備については、少人数で広々と利用できるというところが大きな理由になっているのではないかなと思われる。

【3年生の年次別変化・保護者のアンケート結果について】

・ 『保護者の相談に適切に応じてくれる』の肯定度は6.8ポイント低下した。

☞ 閉校に向かう中で、今後相談したいということが出てきたときに、次の窓口につなげていくことが必要かと考える。

・ 『学校は人間関係や人権を尊重する意識を育てようとしている』の肯定度は24.5ポイント上昇した。

☞ グループワークや講演会集会など、様々な場面で人間関係について取り上げてきたことが、評価につながったと考えている。

【現3年生の経年変化・生徒のアンケート結果について】

48期生における1年生からの3年生までの3年間を比較したものである。

- ・生徒の『授業でわからないことについて先生に質問できている』の肯定度は6ポイント上昇した。
- ☞ 3年生ということもあり、教員との関係が築かれたことが反映されているようだ。
- ・『今のクラスに友達がいる』の肯定度についても、高い評価を保っている。
- ・『学校に行くのは楽しい』の肯定度も10ポイント以上上昇した。
- ☞ 3年間で人間関係が築かれ、友人がいていいることで学校生活が楽しいと感じている生徒が増えてきているように思われる。

【現3年生の経年変化・保護者のアンケート結果について】

- ・『学校は教育方針や教育情報等を分かりやすく伝えている』の肯定度は12.9ポイント上昇した。
- ☞ 生徒を通じて、「授業」や「学校の方針」に対する保護者の理解が、この3年間で徐々に深まったと考えている。
- ・『人間関係や人権を尊重する意識を育てようとしている』の肯定度も大きく上昇した。
- ☞ 保護者から見ても、生徒がよい人間関係を築けていると捉えていただいている。

【全体を通して】

- ・全体として昨年度より肯定度が上昇した項目が多かった。平均値で見ると、生徒で3.5ポイント、保護者で6.0ポイント、教職員で2.9ポイント、それぞれ上昇していた。また、過去3年間と比較しても全体の数値が上昇している。
- ☞ 授業改善をはじめとする生徒指導、進路指導など、校内研修や日々の教員の研鑽の成果であると考ええる。
- ☞ 今回のアンケートの結果を、この後の美原高校の教育活動につなげていきたいと考えている。

【自由記述について】

- ・生徒から、ひざかけやナチュラルメイクについて、校則で認めてほしいなどの記述があった。それに対する施策はすでに出している。

（協議員より）

- ・先生方の日々の取組みにより、生徒のみなさんが良い影響を受けている。学校が閉校するのはとてももったいないと感じて、寂しい気持ちでいっぱいになる。
- ・会社でも、退職される方が引退されるときに、「この会社に来て良かった」と言ってもらえることを目標に頑張っている。美原高校でも、引き続き同じように頑張りたいだけ、生徒のみなさんが「美原高校に来て良かった」と思ってもらえるように取り組んでほしい。
- ・生徒数が減る中で、様々な行事が縮小していくのではなく、生徒の満足度が高まるように工夫を重ねていて本当に素晴らしい。

○ 令和7年度授業アンケート結果と結果の分析について

今年度は第1回を7月9日、第2回目を12月15日に実施した。なお、評価指標や評価の観点、質問等に変更していない。

- ・ 令和7年度は、第1回と第2回の平均値を前年度と比較すると、全ての項目で前年度よりも良い数値が出ており、非常に高い結果となった。
- ☞ 生徒の授業への取組みに関する評価が高い。この傾向は昨年度も同様で、生徒は自分自身の授業に取り組む姿勢を肯定的にとらえていることが伺える。
- ・ 生徒の意識（興味関心・知識技能）については、他の項目より低いものの平均値は3.5以上と、昨年度と比較しても大きく上昇している。
- ☞ 生徒は、授業に対して興味関心を持って授業に臨んでいることが伺える。
- ・ 1回目と2回目の結果を比較すると、例年は2回目の結果が下がることが多いが、今年度は2回目に上がっているところもある。授業の様子を見ても、年度の後半になっても授業に集中できており、1年間通して生徒たちは取り組んでいるように見える。

（協議員より）

- ・ 各教科で分析していただいた資料について
- ・ 教員がPTで学んだことや授業で工夫したことが評価として表れている。学校をあげて、改善を重ねているところが子どもたちに響いているように思う。
- ⇒ 指導主事からも、先生方が一生懸命議論をしていて前向に話をされていることに関心をいただいている。また、研究授業も素晴らしいものとなった。

◎ 各分掌より

○ 保健部

- ・ 各検診は非常にスムーズに終了した。今年度は保健委員が先導にして、生徒を引率するという形を取った。検診の待ち時間も非常に静かで、授業等支障がない形で行えた。
- ・ 救命講習会（教職員対象）には多くの先生方が積極的に参加していただいた。
- ・ 手洗いの石鹸、アルコールの補充等については、施設設備の利用状況に応じて設置数を変えさせていただいた。
- ・ 助産師さんを講師に「性に関する講演会」を実施した。避妊や中絶だけでなく、人間関係やハラスメントなどの社会的に問題になっていることも取り上げながら実施した。また、ライフプランについても様々な考え方を共有しながら進めていただいた。
- ・ 避難訓練は6月12日に第1回を、11月13日に第2回を実施した。
- 第1回は、地震を中心に行ったが、台風や大雨、警報に対しても動画を用いて総合的に災害について学べるよう取り組んだ。
- 第2回は、火災を想定して行った。火災だけではなく災害についても、災害後の復興や自宅が受けるダメージなど災害後の視点を学ばせた。また、能登半島地震・奥能登豪雨災害について資料を用いて学んだ。

- ・ 保健センターによる「食に関する講演会」を実施した。食生活について見直す講演であったが、漫画を引用しながらポイントを絞ってやっていただいたことから、より生徒に身近に感じてもらえたかと思っている。

また、保健センターを認識していない生徒が8~9割いることから、美原の保健センターの位置情報やネット検索方法などについて話していただいた。そして、人間関係の悩みから保健室に来室する生徒もいることから、社会に出て行き詰まった時の窓口として考えてもらいたいという視点も取り入れた。

- ・ 環境衛生検査では、前年度に体育館の照度が少し不十分であるとの指摘をいただいた。そのため、体育の種目に応じてカーテンを開けるなどの対応を行っている。今年度は、全てカーテンを開けている状態で授業を実施しており、照度が十分に確保されている状態であった。
- ・ 保健委員会（生徒）では、生徒が教室の二酸化炭素の濃度や、照明の照度などを測る場を設けた。また、水道水の塩素濃度も測るなど普段できないような経験をさせることができた。
- ・ 衛生用品、生理用品も緊急事態の場合は使えるように用意している。今年度、美原高校には在庫がたくさんあることから、還元する目的で生徒に積極的に配布している。
- ・ スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーについては、予定通り進んでいる。
- ・ 本校歯科医による歯科指導を月に1回行っていただいている。今年度は、歯医者での治療の経過についても声かけをさせてもらっており、できるだけ500円で治療できる期間に受診・治療するように促した。
- ・ 他校では学年閉鎖やインフルエンザなど感染症の蔓延があったが、本校は大きく広がらなかった。
- ・ 保健室の来室状況は、前年度より少し上がっている。体調不良だけでなく、人間関係で気持ちが落ち込んだことによる来室が多かったように思う。
- ・ スポーツ振興センターの申請状況については、怪我が少し増える傾向があった。他校でも思わぬ怪我が増えているという報告があり、本校も同じような傾向があるようだ。

○ 第3学年進路状況

進学・就職とも決定率が100%になった。

○ 令和7年度生活指導上の統計

- ・ 1人当たりの平均遅刻回数は、昨年より増えてしまった。しかし、起立性調節障害の診断が出るなど、なかなか朝の登校が難しい生徒や不登校傾向の生徒などの配慮生徒もいる。
- ・ 48期生の変化で遅刻指導の内容としては、以前まではギリギリで遅刻となる生徒が多かったが、朝学が始まったこともあり遅刻がかなり減少した。
- ・ 遅刻の内容で多かったのは、通院や体調不良によるものである。しんどくても頑張っ

てくるという生徒が増えている。

- ・ 懲戒件数に関しては減少傾向にある。今年度は、人間関係のトラブルからの懲戒もなかった。人間関係トレーニングやクラス開きなどを丁寧に行った成果が出ているものと考えている。
- ・ 交通事故については、9割以上が自転車通学ということで、毎年事故が多かった。しかし、今年度の登下校中の事故は2件にとどまった。
- ・ 今年度はセーフティーバイスクール推進校の指定を受け、生徒会執行部を中心に活動を行っている。自転車利用の安全を「考え」「学び」「行動する」というプロジェクトで、3月には堺市の市役所で、本校生徒の作成した安全運転のポスターの掲示も行っている。

（協議会より）

- ・ 生徒数は減ってしまったが、教職員と生徒の関係が密になっていることがよく分かる。全ての活動が本当にうまくいっており、生徒たちも良い思い出を残していると思う。
- ・ 生徒、保護者、教員ともども、全般的に前年度評価を上回っており、非常に良かった。その一方で、閉校が決定するまでに定員割れを防ぐ働きかけなどの課題があったのではないか感じた。これを教訓にしてこれからもがんばっていただきたい。
- ・ 保護者として先生方には感謝しかない。
- ・ 先生方の人数も減っている中、授業改善などすごく努力している。また、それを子どもたちが全部受け止めてくれており、アンケートの評価の上昇にもつながっていると思う。そして進学・就職についても100%決定という数字につながったのだろう。

○ 閉会挨拶

教員の方々については、今後どこの学校へ行っても、美原高校での経験を伝えるともに力を結集して、より良い学校づくりをしていくかということは本当に大きな課題だと思っている。

どこへ異動しても、その学校のために一生懸命頑張れる先生であってほしいと思っている。

運営協議会の皆様については、様々な場面でご意見や叱咤激励いただき、励みになりました。

あともう少しではあるが引き続き、ご支援いただければと思う。